傷

六年

画数 13

筆順 亻 佇 傷 傷

オン ショウ

クン きず・いた＝む＝める

成り立ち

"矢（ヤシ）"と"昜（ヨウ）"（陽 年 3 434・日が当たる）とで「矢に当たる」ことを表した"昜（ショウ）"と、"亻"とを組み合わせて作った字です。

「人が矢に当たる」ことを表した字です。"矢きず"という意味の字でしたが、今は、単に"きず"の意味に使われています。例負傷、重傷、火傷、凍傷、裂傷、致命傷。

きずが"いたむ"という意味から、「心が"いたむ"」という意味にも使われます。例傷心、感傷、愁傷。

使い方

▽昨日起こった交通事故の負傷者は七人で、そのうち三人が重傷でした。四人は軽傷ですみましたが、皆、安全運転を心がけて欲しいものです。

▽秋が深まり、冬が近づいて来ると、何となくさびしくなるときがあります。木の葉が落ちて、寒さが身にしみ、もう一年もそろそろ終わりかと思うと、つい感傷的になるのです。

熟語例

▽負傷（傷を負（お）うこと。けがをすること。）

▽重傷（重い傷。対「軽傷（ケイショウ）」）

▽火傷（カショウ）（やけど）

▽凍傷（トウショウ）（こごえたためにできる傷）

▽裂傷（レッショウ）（裂（さ）けてできた傷）

▽致命傷（チメイショウ）（命にかかわるほどひどい傷。また、大失敗のたとえにもつかいます。「あそこでバトンタッチを失敗したのが致命傷で、リレーに負けてしまった」など）

▽傷心（ショウシン）（心が痛むこと。非常に悲しいこと。）

▽感傷（カンショウ）（物事に感じて、心を痛め悲しむ気持ち）

▽愁傷（シュウショウ）（うれい悲しむこと。）

障

六年

画数 14

筆順 阝 陪 障

オン ショウ

クン さわ＝る

成り立ち

「音楽の"終わり"」を表した"章（ショウ）（年 3 339）"と、崖（がけ）の形を表した"阝"とを組み合わせて作った字です。

「崖があって、それ以上進めない道（道の終わり）」を表した字です。崖が道を"さえぎる"ことを表した字です。崖が道を"さまたげ"ていますので、"さまたげる（さわる）"という意味に使われます。例障子、障壁、障害、故障、支障、万障。

また、障壁は「防ぎ守る」のに役立ちますので、「守る」という意味にも使われます。例保障。

使い方

▽運動会で障害物競争に出ました。はしごをくぐったり、ネットの下にもぐったり、大変でしたが、二等になって、愉快でした。

▽家族そろってドライブに出かけましたが、途中で車が故障してしまい、散々な目にあいました。

熟語例

▽障子（ショウジ）（「さかいになるもの」の意味です。今では、もっぱら、和室のさかいに設けた"明かり障子"を言います。）

▽障壁（ショウヘキ）（さかいになる壁のことです。これも、今では、意味が限定されて、「何かを通じさせないようにさまたげるもの」という意味につかわれます。「言葉が障壁となって、外国人との交流が遅れている」など。）

▽障害（ショウガイ）（さまたげるもの）

▽故障（コショウ）（機械などの調子が悪くなって、正常に働かないこと。）

▽支障（シショウ）（ささわり。つごうの悪いこと。）

▽万障（バンショウ）（あらゆるささわり。「万障繰り合わせて出席した」などというふうに、つかいます。）

▽保障（ホショウ）（ふせぎ守ること。）